



2012FUJICHAMPIONRACESERIESROUND 4



富士スピードウェイ、ツインリンクもてぎ、鈴鹿サーキットと転戦する若手ドライバーの登竜門となっているフォーミュラチャレンジ・ジャパン (FCJ) が富士チャンピオンレースシリーズ第4戦で第5・6・7戦と3連戦の決勝レースが行われた。まず土曜日の朝9:00から予選が行われ、ベストタイム順に第5戦のグリッドが決まる。その第5戦決勝のベストタイムで第6戦のグリッド、第6戦決勝のベストタイムで第7戦グリッドが決まるといったレギュレーションになっている。予選でトップタイムを出したのは、10 HFDP/SRS-F/ARTA松下信治で1'43.643。続いては12 NDDP DAISHINFCJ 高星明誠、3番手にポイントリーダーの4 FTRSクラリオンFCJ 平川亮がつけてきている。最初の決勝・第5戦は土曜日の12:45、好スタートが切られ全車きれいに1コーナーへ消えてゆく。レース中盤で雨が落ちてきたものの、10松下が徐々に引き離しそのままトップでチェッカーを受けた。2位には4平川が、3位には5番手スタートからの3 FTRS 篠谷大幹が入った。第6戦は土曜日最後の決勝レースで、16:00スタート。路面はほぼ乾いた状態になってきて、前車スリックタイヤでレースに臨んだ。スタートからグリッドのまま1コーナーへ。また逃げるレース展開になった10松下だが、序盤では4平川もポイントリーダーの名を掛けて追いつき、その差を1秒を切る所まで追いつけたが、15週のレースを終えた時には3秒余りの差をつけて10松下が逃げ切った。2位には4平川、3位に7番手スタートだった12高星が入った。日曜日に行われた第7戦決勝レースでのグリッドは10松下、フロントローには8 HFDP/SRS-F/ARTA 清原章太、3番グリッドに4平川という順、第7戦のみ21周で戦われる。スタート時に明るくはなっているものの路面はまだウェットからドライへといった難しいコンディション、その中をやはり先頭を押さえたのは10松下だった。2位には8清原、3位に4平川という結果になった。レース終了後松下は「次からは得意の鈴鹿なので、5連勝したいです」と逆転でのシリーズチャンピンに向け、意気盛んなコメントを残した。

富士スピードウェイ、SUGO、岡山、もてぎと転戦をし、1開催2レースづつ全10戦で行われるこのシリーズは折り返し地点の第5・6戦が今回行われた。トライアルクラス、カテゴリーI、カテゴリーII、オープンクラスに分かれての混走。まず日曜日午前中、雨の予選でトップに立ったのは、トライアルクラスの3 KRM&ワカミヤ997CUPの小島英気、そこに66 TEAM KRM&LS997山口直秋が続く、3番手には58 データスケープKTR鈴木優の順に。11:50スタートの第5戦では雨は上がってはいるものの、ウェットのためにセーフティカーの先導で2周の後にローリングスタートの形でスタートが切られ、まずは3小島がトップを守ったが、3周目にスピンし、4番手スタートのトライアルクラス47 D'station HAI997の星野 敏が一旦トップに、4周目には5番手スタートのトライアルクラス22 PCJコヤマクリニック 小山雅也がトップに立つといった激しい争い、しかし7周目にそのポジションを奪い返した3小島が優勝。2位には66山口、3位に22小山という結果。15:45から行われた第6戦では、ほぼ雨も上がり路面状況もドライとなりコンディションが好転した中、第5戦でトップタイムを出した66山口がポールポジション。ローリングスタートからトップを守り、この決勝中でも次々とファステストラップを塗り替えながら、そのままチェッカーを受けた。2位には3小島、3位に22小山が予選6番手から追いつけての表彰台となった



RESULT リザルト FCJ Rd.5			
Rank	No.	Name	
1	10	松下	信治
2	4	平川	亮
3	3	篠谷	大幹
4	8	清原	章太
5	12	高星	明誠
6	5	周藤	康平
7	1	川端	伸太郎
8	13	藤波	清斗
9	9	道見	真也
10	2	黒崎	駿



RESULT リザルト FCJ Rd.6			
Rank	No.	Name	
1	10	松下	信治
2	4	平川	亮
3	12	高星	明誠
4	8	清原	章太
5	11	坪井	翔
6	13	藤波	清斗
7	2	黒崎	駿
8	20	石川	京侍
9	9	道見	真也
10	14	三笠	雄一



RESULT リザルト FCJ Rd.7			
Rank	No.	Name	
1	10	松下	信治
2	8	清原	章太
3	4	平川	亮
4	12	高星	明誠
5	3	篠谷	大幹
6	1	川端	伸太郎
7	13	藤波	清斗
8	5	周藤	康平
9	2	黒崎	駿
10	11	坪井	翔



RESULT リザルト GT3 Cup Rd.5		
Rank	No.	Name
トライアル		
1	3	小島 英気
2	66	山口 直秋
3	22	小山 雅也
4	47	星野 敏
5	31	眞野 壮一郎
6	12	ヨーヨー
7	58	鈴木 優
8	29	滝澤 智幸
カテゴリー I		
1	77	MUSASHI
2	8	タカシ
3	7	清水 正智
4	2	二宮 嘉章
5	17	藤森 博
カテゴリー II		
1	55	Mr.Fukasawa
2	38	みやざき あきのり
オープン		
1	24	中原 健次



RESULT リザルト GT3 Cup Rd.6		
Rank	No.	Name
トライアル		
1	66	山口 直秋
2	3	小島 英気
3	22	小山 雅也
4	31	眞野 壮一郎
5	58	鈴木 優
6	47	星野 敏
7	12	ヨーヨー
8	29	滝澤 智幸
カテゴリー I		
1	77	MUSASHI
2	7	清水 正智
3	8	タカシ
4	2	二宮 嘉章
カテゴリー II		
1	55	Mr.Fukasawa
2	38	みやざき あきのり
オープン		
1	24	中原 健次

REVIEW

ROADSTER CUP NC
DEMIO RACE
Round 3



RESULT リザルト NC Class			
Rank	No.	Name	
1	21	新井 敏克	
2	64	芝本 淳	
3	121	Blackmore	
4	80	染谷 浩一	
5	8	菊池 聡	
6	18	ランマン	



RESULT リザルト DEMIO RACE			
Rank	No.	Name	
1	75	西山 隆	
2	85	奥津 智貴	
3	34	常盤 岳史	
4	70	古閑 宏	

REVIEW

ROADSTER CUP
NA6/NA8/NB8
Round 4



RESULT リザルト NA6 Class			
Rank	No.	Name	
1	15	毛塚 広幸	
2	882	杉岡 尚人	
3	23	山川 穰	
4	76	辻本 均	
5	999	鳥居 武史	
6	124	山本 浩朗	



RESULT リザルト NA8 Class			
Rank	No.	Name	
1	60	土屋 潤	
2	230	石渡 幸治	
3	82	勝とう 常時	
4	0	松本 章宏	
5	88	山田 健介	
6	71	山本 純一	



RESULT リザルト NB8 Class			
Rank	No.	Name	
1	78	赤石沢 清人	
2	11	戸田 裕一	
3	75	澤田 薫	
4	22	山平 健太郎	
5	77	伊藤 元洋	
6	41	後藤 満	

2dayで行われる第4戦の最初の決勝となったこのクラス、土曜日に予選・決勝と行う。まず土曜の朝一番で行われた予選でポールポジションの座を決めたのは、ロードスターNCクラスの18 JOYMoty'sロードスターabのランマン、タイムは2'12.181。そこに続くのが8 ド☆ライダーロードスター 菊池聡、三番手にはポイントリーダーの21 新井μおやぢロードスター 新井敏克の順。デミオクラスではここまでのランキング1位、75 145デミオ改withSKR西山隆が2'19.454とコースレコードも更新しての堂々のトップ。決勝スタート時には気温26度、路面温度30度、グリット整列の頃には土砂降り状態だった雨もフォーメーション中には上がりかけてはきたが、コース上は場所によってはまだ降っているところもあり展開が全く読めない。ポールからトップで1コーナーに入った18ランマンだが一周を終えて最初に戻ってきたのは8 菊池、僅差で21新井が各コーナーで仕掛ける前半の展開、だが8 菊池がジャンピングスタートとの判定がくだりドライブスルーペナルティで後退、トップに立った21新井がそのままトップでチェッカーを受けた。デミオクラスは75西山の圧勝。両クラスともこれで21新井、75西山が残り一戦を前にシリーズチャンピオンを決めた。レース終了後のコメントでは21新井「予選を失敗してしまったのですが、決勝で取り返せました。天候の事やスタート直後の1コーナーで何かあるかもと予想していたのですが、すべて上手くいきました」と話し、75西山は「雨が突然降ってきたり晴れてきたりととても難しいコンディションでした。後半少しずつ路面がグリップするようになってきたので様子を見ながら少しずつペースを上げて、後ろを引き離しにかかりました」と話していた。

REVIEW

AE111 Levin/Trueno

ROUND 3



第3戦目となるAE111クラス、今回を入れて残り2戦だが、まだシリーズチャンピオンの行方が見えてこない接戦が続いている。今回は土曜日に予選・決勝とも行われ、雨の中の予選でポールポジションに決まったのは22 IDI マルヨシフルスロトレノ 宮崎敏 2'12.134のタイムだ。2番手に78 藤和ケミカルTakadaトレノの冥加直文、三番手に46 T-RISE太建EDエボレピン 溝口司、ポイントリーダーの7 C千葉千自総大エンドレスレビンの市丸聡は4番手からのスタート、1ポイント差で追いかける77SPM☆UETAAKEトレノのなかむらたかひろは5番手スタートのポジションだ。午後の決勝スタート時には、晴れ間も覗いているが路面はまだ濡れている状態。綺麗にスタートが切られトップを押さえたのは22宮崎、だが直後にはやはり7市丸が迫ってきている。77なかむらもオープニングラップで2番手まで来たものの2周目にまた5番手、その後3番手まで追上げる、上位陣は7市丸と22宮崎がコンマ差のタイムで激しいデットヒート、少し後ろでは77なかむら、78冥加、46溝口、31安藤智、40山本秀一5台が激しい3位表彰台争いを繰り広げている。レース後半になって3位争いの方は77なかむらと78冥加の一騎打ちになり、制したのは77なかむらだった。最後まで目が離せないトップ争いは0.8秒差で7市丸が先にチェッカーを受けた。表彰式が終わっても、まだ汗の引かないほど激しいレースを魅せてくれたドライバー達、優勝の7市丸は「とにかく疲れました!」と話していた。

RESULT リザルト AE111

Rank	No.	Name
1	7	市丸 聡
2	22	宮崎 敏
3	77	なかむら たかひろ
4	78	冥賀 直文
5	46	溝口 司
6	31	安藤 智

REVIEW

Super FJ/FJ1600

ROUND 5



こちらのクラスは土曜日に予選、日曜日に決勝が行われた。ウェット路面の予選で1'58.234とトップタイムを出したのは、S-FJクラス1 LEYJUN筑波ガレージ10VのOSAMU、2番手には22 ペースメーカー150WN10V 赤堀憲臣、続いては75 B-MAXイエローダック10V 上別府将司。FJ1600クラスでは20 ROMANTEC・IDI・95 柿島昭一がトップ、12オートルックEVOLEX・SK北野正規がそこに続く。土曜日の夜中にはかなりの降雨量があり、決勝スタート時に雨はあがってはいたものの、水はけの良いコース上でもまだ路面はかなり濡れている状態。スタートでは1OSAMUがトップのまま1コーナーへ、その75上別府が2番手に上がり序盤はトップ争い、そこに続くのは7番手からジャンプアップしてきた41 B-MAX・ED10Vの今井龍太、序盤はこの順位で周回を重ねるが、3分の2を過ぎる頃から3台の激しいトップ争い。9周目には75上別府がトップに立つが10周目には1 OSAMUが奪い返す、その隙に41今井が2番手に最終ラップのダンロップコーナーで41今井がトップに出て激しいレースを制した。FJ1600も7周目にトップ2台の激しい争い、0.003秒差で制したのは20柿島だった。41今井は「落ち着いて走れました。最初からプッシュして2位を狙うことも考えましたが、上別府さんと無理に争ってトップから離されないように考えながら相手のミスを狙って前に出られました」と嬉しいコメント、20柿島は「スタートをミスして終わったと思ったのですが、また前に出られ、その後も追いつかれてしまいました。ラストのストレートでスリップに付いて抜くという考えが上手くいきました」と、こちらも戦略が上手くいったの嬉しいコメントを話してくれた。

RESULT リザルト SUPER FJ

Rank	No.	Name
1	41	今井 龍太
2	1	OSAMU
3	75	上別府 将司
4	22	赤堀 憲臣
5	51	RAIDEN
6	55	中西 慶佑

RESULT リザルト FJ1600

Rank	No.	Name
1	20	柿島 昭一
2	12	北野 正規
3	6	笹尾 徹也

REVIEW

SILVIA-180/MR2/NA1600
N1600/COLLORA AXIO GT
ROUND 2



こちらは今回が第2戦目となるクラス、日曜日のワンディで行われ、朝一番の予選でトップタイムを出したのはNA1600クラス73 ウィナーグループIDIユーノスの小宮伸介、37四季の森齒科IDIウィナーG86 秋元優範、N1600クラスの240ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇、シルビア180クラス24プロμクラフト斎藤フルスロ13 瀧下貴之、MR2クラスのMSPアクレMOTYSMR2 土取謙太郎と各クラス入り乱れての順番、スターティンググリッドはいつものようにNA1600・アクシオクラス、シルビア180・MR2クラス、N1600クラスとグリッドを空けての整列、決勝では好スタートを決めた60 OTGアクシオGT 吉田利明がトップに出るがその後順位を下げ、ストレートに戻ってきた時には73小宮、3土取、37秋元、24瀧下、78谷田の順、この上位5台がクラスは違うものの前半は激しい争いレース中盤になり24瀧下がトップに立つが後半に入ると37秋元がトップに、またMR2の3土取、78谷田はコンマ差の激しいトップ争いを続けている。12週のレースを終え、最初にチェッカーを受けたのは37秋元だった。2位には0.8秒差で73小宮、3番手にはクラス優勝の24瀧下、4番目には激しい戦いでMR2クラス優勝の78谷田が入った。レース終了後に2位の73小宮は「最終ラップで前に出たのですが、シフトミスで5速に入ってしまいました」と失敗を話し37秋元は「ゆずっていただきました」とレースは激しかったものの、楽しく走れたと両者とも話してくれた。N1600優勝の240山口は「セッティングが上手く決まって、とても楽しく走れました」とコメント、MR2 78谷田は「逃げ切るのがとても大変でした、次も勝てるように頑張ります」シルビア180クラスの24瀧下は「タイヤもたれてきたので後ろからトップの走りを勉強させてもらいました」と話していた。



RESULT リザルト **SILVIA-180**

Rank	No.	Name
1	24	瀧下 貴之



RESULT リザルト **NA1600**

Rank	No.	Name
1	37	秋元 優範
2	73	小宮 伸介



RESULT リザルト **N1600**

Rank	No.	Name
1	240	山口 崇
2	40	柳本 文彦
3	16	朝倉 潤司
4	36	大石 重之
5	9	鈴木 ひさお
6	41	中村 徹



RESULT リザルト **MR2**

Rank	No.	Name
1	78	谷田 伸行
2	3	土取 謙太郎
3	4	阿部 恵一
4	76	深田 篤史
5	26	藤永 雅彦

REVIEW

ROADSTER NA6
ROUND 2



第2戦となるロードスターNA6レース、日曜日のワンディで行われた。午前中ウェット路面での予選でトップタイムを出したのは昨年のシリーズチャンピオン1 コーンズIDIロードスター 雨宮恵司、2'27.106のタイム、そこに続くのは18コーンズIDIロードスター 大野俊哉、2'27.508、3番グリッドに3 コーンズロードスター 秋月義雄。今回の最終レースとなるこのカテゴリーのスタートが切られたのは16:40、路面はもう完全にドライになっていた。好スタートを決めトップを守る1雨宮だが、18大野も離されない、終始コンマ差の激しいトップ争い、何度も18大野が前には出るのだが、抜き返されるといったバトルが繰り返され、10週のレースを制したのは0.3秒差で先にチェッカーを受けた1雨宮だった。まだ、その後ろでは3番手争いも熾烈、7台が入り乱れて周回ごとに順位が代わるほどの激しい争いが続き、その中で7周目に3位に上がりそのままキープをしたのは最後尾スタートの22 abにゃじごんロードスターのニャジゴンだった。レース終了後に1雨宮は「白熱したレースでしょ!?練習もあのようにやっていたので本番につなげてとても楽しいレースが出来ました。5周目くらいで少し雨が落ちてきたら大野が速いんですね～、同じチームで師匠と弟子なのでまだまだ負けられません」と楽しそうに話し、18大野は「チャンピオンをあっさり決められちゃうわけにはいけないので、次は絶対勝ちます」とコメント。



RESULT リザルト **ROADSTER**

Rank	No.	Name
1	1	雨宮 恵司
2	18	大野 俊哉
3	22	ニャジゴン
4	21	あすか
5	9	万歳 聡
6	81	安達 陽平